

ピーマン新品種 ‘トサミドリ’ と ‘トサミドリ 2号’ の育成



‘トサミドリ’



‘トサミドリ 2号’

果実および収量特性^{Z)}

品種	光沢	果色	果実の揃い	しわ	肉厚 ^{Y)}	平均1果重 ^{Y)}	秀品収量		秀品率 (%)	L品率 (%)
					(mm)	(g)	(g/株)	指数		
トサミドリ	やや強	緑	やや良	中	2.1	34.5	9,724	108	83	30
トサミドリ2号	やや強	やや淡緑	良	やや少	2.3	33.0	9,137	102	74	15
トサヒメR	中	緑	やや良	中	2.3	33.1	8,976	100	74	12
みはた2号	中	緑	中	やや多	2.2	31.2	7,367	82	62	6

Z)品種登録審査基準による。標準品種:トサヒメR、参考品種:みはた2号。

2001年8月16日播種、10月2日定植、10月24日～5月収穫。

試験規模:1区5株、2反復。

Y)緑熟果を調査。

両品種の特徴は、トバモウイルス抵抗性^{L)}遺伝子を花粉親にも導入したことで、現在の栽培品種‘トサヒメR’や‘みはた2号’より高温条件下でも強い抵抗性を示します。

両品種とも果実の光沢が強く、しわが少なく、果実の揃いや収量性に優れています。

‘トサミドリ’は着果初期の肥大性が良く、L品率が高いことから、乾燥しやすい砂地でも規格サイズに肥大することが可能です。

一方、‘トサミドリ2号’の果色は‘トサミドリ’と比べてやや淡いですが、肉厚でしわが少なく、より果実の揃いが良いのが特徴です。また、現地の水田土壌で行った試験では、‘トサミドリ’に比べ収量性に優れる結果が得られており、圃場の土壌条件により両品種の使い分けが可能と考えています。

(園芸作物担当 細美祐子 088-863-4916)